

13101 全人教育論 a、b Survey of Education for the Whole Man		2 年次～ a：前、b：後 2 単位	
担当者	渡部 芳樹	履修可能学科	E Pc選必 C W F
		関 連 資 格	
サブタイトル	教育・保育の倫理—教育・保育に関わる者としてのあり方を考える—		
授業内容 ・ ねらい	〔目的〕人間の調和的な成長を支える倫理、および善について理解すると共に、教育・保育に関わる者としてのあり方を考える観点と態度の習得を目指します。 〔内容・方法〕教育・保育は、単に子どもを保護し知識を継承するだけの営みではありません。そこには倫理的な使命、子どもたちを「善く」成長させるという使命があります。しかしながら、「善さ」とはいったい何でしょうか。この問いは、あなた（受講者）自らの生のあり方・生き方に深く関わる問いかけです。 本科目では、善に関するさまざまな考え方について、倫理的な葛藤（ディレンマ）の場面やその歴史について講義し、受講者と共に検討をおこないます。この作業を通じて、教育・保育に関わる者としてのあり方を模索します。		
授業計画	以下の内容をおこないます。 ①オリエンテーション ⑧自己のためのモラル（1） ②全人教育とは何か—教育と善（1）— ⑨〃（2） ③パイデアpaideiaとギリシアの教育—〃（2）— ⑩自己への関心（1） ④二つの教育理念—〃（3）— ⑪〃（2） ⑤今日の教育が目指すもの—〃（4）— ⑫ケアリングのモラル形成（1） ⑥功利主義—倫理学の観点（1）— ⑬〃（2） ⑦義務論—〃（2）— ⑭〃（3） ⑮全人教育論の再検討		
教科書 参考書	教）越智貢・金子淑子・川本隆史編『応用倫理学講義—6教育—』（岩波書店） 注）本テキストの一部のみを使用するため、授業時に該当部分を資料として配布します。しかしながら、できる限り購入することが望ましいと考えます。		
評価方法	〔評価〕学期末の試験により評価します。また授業態度も評価に加味します。		
事前準備学習 履修条件等	①毎回多くの予習を課します。②他に迷惑を与える行為には、厳しく対処します。③第1回目の授業時に、本シラバスを持参すること。		